

○事業所名	有限会社TSUBASA 放課後等デイサービス大洋		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 16日		～ 2026年 3月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18家庭	(回答者数) 14家庭
○従業者評価実施期間	2026年 2月 23日		～ 2026年 3月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画の内容がガイドラインに沿った誰が見てもわかりやすく 具体的な支援内容になるよう作成している。	モニタリング時期だけではなく、日々のミーティングで児童の様子や課題について話し合い、適切に見直せるよう努めている。活動内容に関しては、子ども達の「楽しい」という気持ちを大切に、課題改善ができるよう毎月バリエーションのあるプログラムを考え、サポートしている。	パート職員は、個別支援計画を目にする機会が社員よりも少ない為、支援に関わる職員には共有し、統一した支援ができるよう努めていく。
2	保護者との情報共有に努めている。成長療育支援システム『HUG』を導入し、利用日に更新。保護者の方と支援について同じ方向を向くことができるように努めている。	『HUG』にて日々の様子を写真付きで共有している。日々の送迎時やモニタリング面談以外にも必要に応じて家庭での困り事等を傾聴する機会を設けている。	実際に大洋での活動を体験できるよう デジタルリハビリツール『デジタルハ』や体育館活動の親子参観日等を検討していく。(今年度、新規見学の際に『デジタルハ』を体験。好評だった。)
3	子ども達が安心して過ごせる場所を提供できるよう努めている。	・児童同士のトラブルの際に、職員が間に入って話を聞いている。自分の悪かった事を振り返り、相手の立場に立って考える事ができるようサポートしている。 ・義務化された訓練・研修をパート職員を含め行っている。今年度は、送迎中の津波を想定した訓練も行う。	義務化された訓練の回数以上に、送迎時の津波を想定した訓練を増やし、今後安心・安全に努めていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域イベントでは、子どもたちや大人との交流はあるが、回数は少ない。児童館や放課後児童クラブとの交流や活動する機会は、現在はない。	多様な人との関わりに課題がみられる。また、場の雰囲気を読み取る事に困難な児童が多く、安全面から考えても積極的に企画ができなかった。	積極的に地域で開かれているイベントに参加していく。職員が間に入り、円滑なコミュニケーションが取れるようサポートする。
2	個別での面談や連絡のやり取りの中で、各家庭の相談事を傾聴したりアドバイスを行う事もありますが、ペアレントトレーニングは行っていない。	日頃のやり取りから、保護者様ご自身が子育てに悩んでいる様子も見受けられる。仕事や家庭の都合により参加が難しいと考えられる為、企画・実施したとしても参加が見込まれないと感じる。	今後、スマホ等で視聴できるペアレント・トレーニングの情報があればお伝えしたり、資料等を各家庭に配布していく。
3	事業所として、保護者会のような児童の保護者同士が交流する場を設ける事ができていない。	今まで、事業所として保護者同士の交流の場がなく、ニーズもなかった。	参観日イベント等の企画を検討するよう努めていく。